

# 落合の文化人シリーズ①

## 「舟橋聖一」展



舟橋聖一誕生記念碑

「花の生涯」書：舟橋聖一

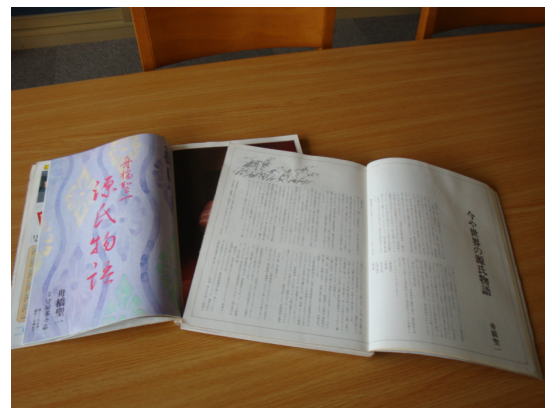
### 碑文

作家舟橋聖一は明治37年(1904)12月25日、本所区横網町2丁目2番地に生る。作家國文学者として盛高く、数々の名作を遺すも、その七十二年の生涯は權威に屈せず市井の文人文学者として独自の風格を持って貫かれている。代表作の一つ「花の生涯」は井伊大老の生涯を綴った醇乎たる逸品であるが、文学者文化人として前人未踏の道を歩いた作家人生もまたそのまま花の生涯と呼ぶにふさわしいものである。 井上靖

この碑は、墨田区横網両国国技館に隣接する北越製紙ビルの北西の角、旧安田庭園と隅田川に面して建てられています。

聖一は母さわの実家近藤家があったことからこの地で生を受け、生涯下町風を愛しました。父了助が東大鉱山

学教授であった関係で、3歳のとき大学に近い本郷に転居、さらに了助と近衛文麿との縁で目白下落合近衛町(このえまち)に落ち着いたのは9歳、大正3年のことでした。近藤家の祖父母にかわいがられた聖一はよく歌舞伎や相撲などに連れていってもらい、たっぷりと江戸情緒を身につけます。その頃、舟津慶之輔のペンネームで挿絵も文も自分で作った「目白公論」と名づけた個人誌は、今も全巻大切に長女美香子さんが保存されています。



雑誌太陽に連載されていた「舟橋源氏」昭和51年1月に亡くなったため、未完に終わった



復元された残月の間(下落合)